

I. 令和7年度事業計画書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村氏の想いを実現するため、令和7年度も関係各方面の方々のご支援・ご協力をいただき以下の事業活動を推進します。

予算案の大枠ですが、収入に関しましては、株式配当が全体としては前年度予算時より大幅増加の見込みのため、対前年度予算より368,696千円増（前年度着地見込みより34,557千円増）となります。また、支出に関しましては、事業費は前年度予算額より72,800千円増で、その他（管理費）は100千円増で、全体の事業活動支出では、前年度予算額より72,900千円増ということになります。

1. 科学技術の研究開発助成

1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成します。

また、助成で開発した成果をその後社会に役立つ商品につなげて欲しいと願い、商品開発および営業力のある企業からの申請を増やす狙いで、平成28年度から助成金比率を2/3から4/5に変更し上限を20,000千円から24,000千円に増額し、応募数の増加につながりました。引き続き中小企業の技術開発が社会に役立つ製品につながるよう充実・強化していきたいと考えており、令和7年度は助成金500,000千円（R06年度予算比同等、H30年度第2次から開始された地球環境分野を含む）と調査・審査費を含め、531,000千円を計上します。

2) 地球環境研究助成

21世紀の重要課題である地球温暖化防止に係わる研究開発を行っている研究者に助成します。令和7年度は8年目を迎えますが、助成金15,000千円（原則3件）と調査・審査費、広報費を含め、37,000千円（R06年度予算と同額）を計上します。

2. 科学技術顕彰と国際交流

1) 科学技術顕彰

科学技術に進歩をもたらし、もってわが国の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与する産業、学術両分野の進展に多大の貢献をされた個人またはグループを市村賞として表彰します。市村賞は産業・学術界において顕著な賞として認知されており、引き続き顕彰事業の充実を図っていきたいと考えています。

令和7年度は産業賞、学術賞、地球環境賞の賞金114,000千円と調査・審査・贈呈式費用、広報費を含め、212,000千円（R06年度予算比5,000千円増）を計上します。

市村産業賞	本賞	1件	賞金	(20,000千円)	記念牌
	功績賞	2件	賞金	(5,000千円)	記念牌
	貢献賞	5件	賞金	(3,000千円)	記念牌
市村学術賞	本賞	1件	賞金	(20,000千円)	記念牌
	功績賞	3件	賞金	(5,000千円)	記念牌
	貢献賞	4件	賞金	(3,000千円)	記念牌
市村地球環境賞	功績賞	2件	賞金	(5,000千円)	記念牌
	貢献賞	4件	賞金	(3,000千円)	記念牌

市村賞受賞記念フォーラムも7回目となりますが、前年度と同等の開催内容および外部委託費等を含め、45,000千円（R06年度予算と同額）を計上します。

2) 国際技術交流

市村学術賞・地球環境学術賞受賞者が受賞研究に関連する国際会議、国際研究集会に出席する場合に渡航費を助成します。

また、わが国において国際会議等の国際技術交流の場を開催しやすくするための支援を積極的に行うため、市村学術賞・地球環境学術賞受賞者が国際会議等の運営責任者である場合、会議運営費の一部を助成します。

実績は状況により毎年変動しますが、令和7年度は両方併せた国際技術交流費として、40,000千円（R06年度予算と同額）を計上します。

3. 科学技術の創造性育成

1) 市村アイデア育成

次代を担う小・中学生を対象として、科学への追求、創造への意欲を高めるよう育成するもので、小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するため、独創的なアイデアを募集し、その優れたものを表彰します。

令和7年度は効率的な募集活動費用や奨学金等の育成費用、広報費、参加賞の経費等として66,000千円（R06年度予算比20,000千円増）を計上します。

2) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などを通して、科学の原理を楽しみながら理解し、さらに科学技術への興味、意欲を高めてもらうことを狙いとするワークショップを実施します。

毎年、東京と地方で実施しており、特に地方では例年好評を得ています。

令和7年度は引き続き内容の充実を図り、東京で半日コースを1回、一日コースを1回（土日2日間）、地方で一日コースを1回（土日2日間）の計3回実施する費用として25,500千円（R06年度予算比6,300千円増）計上します。

4. 植物生育の研究助成

1) 植物研究助成

植物の生育環境および計測技術に関する研究の場として植物研究園を提供するとともに研究費を助成します。

令和7年度も、助成対象研究として植物の生態、その為に必要となる計測技術、

及び植物多様性の保全・再生などの研究助成を行い、調査・審査費、広報費等を含め、植物研究助成費として50,250千円(R06年度予算比12,500千円増)を計上します。

2) 植物研究園運営

令和7年度は研究園の一般開放で引き続き多くの来場者が見込まれ、安全性と利便性向上、研究園の維持管理をメインとし、運営費用として54,000千円(R06年度予算比14,000千円増)を計上します。

5. 事業共通

事業広報

財団の事業内容を広く知っていただくための主な広報活動として、ホームページの運用、年報の発行、広告等を引き続き行います。令和7年度は財団の認知度向上に向けた告知活動をさらに強化、IT化を進めるため43,500千円(R06年度予算比10,000千円増)を計上します。

6. 決算監査

令和6年度決算の会計監査人の監査費用として、3,700千円(税別R06年度予算比100千円増)を監事の同意を得ましたので計上します。

7. その他(投資活動)

令和7年度は、投資活動支出のその他固定資産取得支出の植物研究園改造費として、30,712千円(R06年度予算比30,712千円増)を計上します。

また、本部内施設改造等支出として、50,000千円(R06年度予算比46,570千円増)を計上します。